

彙報

眞宗學會

◆新入生歡迎會 五月十二日

此の會の席上で學會の成果に一段の向上を期する爲、例會の外に月一度研究會を開く案が議決せられ、「聞思會」と呼稱することになった。

◆眞宗學會例會(第二十四回) 六月十日

講師 藤原幸章助教

「選擇集」の中心課題に就て——なる

講題のもとに、難易、勝劣の二義に就て興味ある論究がなされた。

◆聞思會 (第一回) 六月

——「カトリシズム」ヨゼフ・ロゲン
ドルフ著——をテキストとして、カトリシズムに就ての研究を行ふ。

◆眞宗學會例會(第二十五回)

六月二十三日

——將來の眞宗學に就て——といふ課題に就て各自五分間以内で所見を發表し、次いでそれを總合的に検討するといふ形式で研究を行ふ。

佛教學會

◆新入生歡迎會 五月十二日 於會議室

出席者 山口・舟橋・横超教授、佐々

木助教、野澤・富貴原・稻葉講師

研究室 日野・長谷岡・櫻部、學生十數名。

◆遠足 五月三十一日

大和室生寺を訪ふ。

参加者 佐々木助教、ガイド講師、櫻部、學生數名。

◆例會 六月二十四日 於會議室

「宋代の天台實相論」 安藤講師
四明知禮以後の宋代天台において、知禮の性具說に關して、種々な解釋が展開されて行つたことについて詳説さる。

佛教史學會

◆新入生歡迎史蹟踏査(曼殊院)

五月十五日

林丘寺、曼殊院を見學す。獺、曼殊院にて新入生歡迎會を行う。

◆四回生演習史蹟踏査(大阪方面)

五月二十七日

大阪三越にて芭蕉二百六十年忌記念展觀見學。後大阪城を経て美術館で東洋石佛展見學。更に四天王寺に行き御手印緣起拜觀。

◆史蹟踏査(笠置山方面) 六月二十一日

八時四十分汽車にて京都發。笠置寺で晝食後、緣起拜觀。後、解脫鐘磨崖石佛等を見學し下山。

哲學倫理學會

◆新入生歡迎會 五月十六日午後一時

於會議室

本年度は、哲學科二名(楠田・鷲尾)、倫理學科一名の新入生を迎ふ。世良・立花兩教授を圍み、自己紹介、本年度の計畫等につき語り合ふ。

◆例會 六月二十日 午後一時於會議室

一、ヤスパースの理性と反理性について 阿部 助手

一、パスカルの方法について

西井 副手

以上

社會學會

◆新入生歡迎會並びに總會 五月十一日

午後三時

新任の雀部講師並びに新入學會員五名の歡迎會を開催。

出席者 白井・豊島・雀部・池田各教授、學生十一名。

引續き總會を開催、委員の選出、本年度學會運営について協議が爲された。

◆第一回例会 六月十八日 午後三時

「農村社會の集團的統一性の基礎」池田教授

出席者 豊島講師、學生十名。

◆會報第五號を發行(五月)。

獨文學會

◆新入生歡迎會 五月二十四日(月)午後八時 於「森永ホール」

外村教授より「獨乙文學の研究に對する總括的注意並びに、我國に於ける獨乙文學研究初期の勞苦」に就いてお話しあり、最後に研究發表會を九月末に豫定して九時閉會した。

出席者 外村教授・岸助手・學生。

國史學會

◆新入生歡迎史蹟踏査 五月五日 高尾

方面。

三品教授引率。柏原講師、山田助手、日野副手、學生十名參加。高山寺、神護寺見學。

◆史蹟踏査 五月二十四日 堅田方面。

山田助手、日野副手以下先輩二名、學生三名。浮御堂・本福寺(文書中心)・舊家居初家にて、堅田衆の文書を見學。

◆史蹟踏査 六月十四日、醍醐・日野方面。

醍醐三寶院・上醍醐寺・日野法界寺見學。現地にて研究發表。

◆研究生史蹟踏査 六月二十八日 西大寺方面。山田助手、日野副手以下研究生三名學生二名。西大寺・秋篠寺・奈良等見學。

◆研究旅行 七月九日―十二日 紀州方面。

◆輪讀會 每週月曜日 午後三時より吾妻鏡 每週土曜日 午後一時より天文日記

◆國文學會

◆例会 五月十七日(日)十時 蕉風の問題 山本 唯一

彦根ことば

藤谷 一海

◆例会 六月十四日(日)十時

教行信證の成立 湯岡 孝昭

世俗諺文の研究 水田 紀久

◆見學 五月十四日(木)

鞍馬寺、貴船神社。

◆見學 五月十五日(金)

賀茂神社葵祭東遊。

◆見學 六月十四日(日)

桂離宮。

◆輪讀會

平家物語

每週木曜日三時

去來抄

每週金曜日三時

東洋史學會・支那學會

◆新任講師並に新入生歡迎會

五月十三日

新任講師森三樹三郎、藤原利一郎兩氏並びに本年度新入學生の歡迎會を行つた。

出席者 野上、中田兩教授、森、藤原

兩講師平野副手、學生數名。

◆輪讀會 每週木曜午後二時半より 於

研究室

梁高僧傳(卷十二亡身傳より)